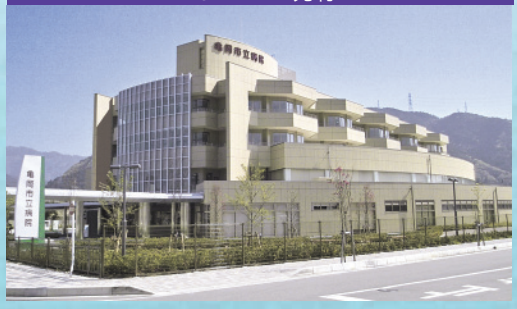
Vol.8
2012.1　発行



発行責任者　亀岡市立病院広報委員会
〒621-8585
京都府亀岡市篠町篠野田１－１
ＴＥＬ　０７７１－２５－７３１３
ＦＡＸ　０７７１－２５－７３１２
http://www.city.kameoka.kyoto.jp/hospital/

病院理念

■急性期医療を中心とした適切かつ良質な医療を提供します。

■患者さまの権利を尊重し、理解と納得に基づいた患者さま中心の医療を行います。

■地域医療機関と連携し、地域に求められる救急医療・高度医療に取り組み地域医療の向上に貢献します。

■公共性と経済性を考慮し、市民の理解と信頼を得られる透明性のある病院運営を行います。

CONTENTS

ごあいさつ …… 1
麻酔科診療内容の紹介 …… 2・3
NST委員会の紹介 …… 4
マンモグラフィー検診施設画像認定更新 …… 4
平成22年度 市立病院の決算概要 …… 5
行政等視察受入報告 …… 5
トピックス …… 6
クリスマス会の開催記事他
病院職員紹介 …… 6
地域連携医のご紹介 …… 7
阿部耳鼻咽喉科医院・さとう整形外科医院
編集後記 …… 8
アクセスマップ …… 8

桔梗 ききょう

亀岡市立病院広報誌

ごあいさつ

新年明けましておめでとうございます。

亀岡市民の皆様には、つつがなく新年をお迎えのこととお慶び申し上げますとともに、平成24年一年の皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

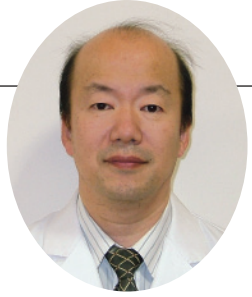
皆様からのご理解とご協力を頂き、亀岡市立病院は、本年６月に開院９年目を迎えることが出来ます。これもひとえに、市民の方々からの信頼と期待の賜物と、病院職員一同、感謝いたしております。

市立病院は病床数100床と、小規模な病院ではあります。しかしながら、急性期から慢性期にわたる、色々な病気に精通した、臨床医として油の乗った常勤医師たちが、各科の垣根を越えて、互いに緊密な連携を取り、皆様の健康を守る為に、日夜奮闘しております。今後さらに、各医師がそれぞれの専門分野を極めて、現在よりも更に進歩した、より高度な医療を提供できるように、努力致したいと存じます。また、医師以外の職員も、それぞれの専門分野で、最新の知識と技術を学び、医療の現場に生かせるように努力を続けていることも、ここにご報告申し上げます。

病院では、長年の懸案事項でありました、電子カルテの導入に向け、各職種の職員が、それぞれの知識と経験を持ち寄り、いかに良い病院として、皆様から信頼していただける病院になれるかを、日々真剣に話し合っております。

規模は小さくとも、病気で苦しまれている方たちの心に寄り添い、少しでも良い医療を皆様にお届けできることを、今後も目標に致したいと存じます。

本年も、皆様のご理解とご協力の程をお願い申し上げます。



運動器疾患センター
センター長　　辻　吉郎

Kameoka municipal hospital

麻酔科診療内容の紹介

麻酔科といっても一般的にはなじみが薄く、どのような仕事をしているのかおわかりにならない方も多いのではないかと思います。今回は当院での麻酔科の仕事について、紹介させていただきます。

麻酔科の仕事には以下のようなものがあります。

1. **手術室での手術麻酔** … 全身麻酔、脊椎麻酔、硬膜外麻酔など
2. **ペインクリニック外来**
3. **緩和医療**（入院、在宅緩和ケア）

1. 手術麻酔

当院では、麻酔科医は私一人ですが、基本的には局所麻酔以外の全ての麻酔を担当しています。術前に外来または病棟で麻酔の説明をさせていただき、患者様に安心して手術麻酔を受けていただけるように努めています。

患者様が手術を受けられる疾患以外にも基礎疾患その他の問題点がないかを術前に把握した上で、手術中の患者様の全身管理、特に呼吸循環管理をおこなっています。麻酔の導入のあとも、手術の進行に合わせて麻酔薬を追加もしくは減量し、血圧や心電図を見て必要な薬剤を入れたり、輸血をしたりして、手術中の患者様の生命を守り、かつ外科系の医師が安心して手術に集中できるようにするのが麻酔科医の仕事です。

全身麻酔に際しましても、可能な限り硬膜外麻酔という、創部周辺にだけ効く分節麻酔を併用して、術中のみならず、術後の痛みを緩和するようにしています。このようにして、“痛みのない、すっきりとした目覚め”を目指した麻酔を施行しています。

硬膜外カテーテル挿入

最近は高齢化に伴い80歳以上の患者様の手術も増えています。90歳以上でも転倒によって生じた骨折などでは、できるだけ早期に手術し、臥床時間を短縮する方針で、予定手術の枠を越えて臨時手術となることもしばしばです。2011年の大腿骨頸部ないしは転子部骨折で手術になった患者様の平均年齢は86.6歳でした。このような高齢でハイリスクの患者様にも安全に麻酔、手術が受けていただけるように日々努めております。

2. ペインクリニック外来

私は、日本ペインクリニック学会認定の専門医として、神経ブロックや薬物療法などを併用して、痛みのコントロールをするペインクリニック外来を開いています。この外来には、帯状疱疹および帯状疱疹後神経痛、腰下肢痛（椎間板ヘルニアや、脊柱管狭窄症など）、頭痛、肩こりや手足のしびれ、創部痛（手術やけがのキズの痛み）、癌の痛み等の患者様が受診されます。

外科外来の診察室を間借りして始めたペインクリニック外来ですが、少しずつ患者様が増えて、月、金曜日の午前中は20人前後の患者様を診察し、お話しを聞いて、神経ブロック、薬物療法などで対応しています。

外来での神経ブロック

最近では近赤外線照射装置（スーパーライザー）を導入し、抗血栓薬などを服用中で神経ブロックが危険な患者様にもブロックと同等の効果を上げる治療も施行しています。

スーパーライザーの照射

院内院外の他科の医師からも疾患に伴う痛みについての相談を受け、外来に紹介された患者様には主治医と密にコミュニケーションをとって、症状コントロールにあたっています。

ペインクリニック外来
月曜日と金曜日　午前8:30～午前11:30受付
（再診は 7:45～）

3. 緩和医療

悪性腫瘍（癌）、進行性の神経難病などで治療中、および治療を終えられて療養中の患者様の痛みやしびれ、その他の症状をできるだけ緩和して、治療や療養生活を支援いたします。当院では内科、外科医師、看護師も緩和ケアの研修を積極的に受けており、日本緩和医療学会認定指導医である私と協力して、患者様の症状コントロールに携わっています。日本緩和医療学会が厚生労働省の委託を受けて、オレンジバルーンプロジェクトという、緩和ケアの普及のための活動を行っていますが、当院ではオレンジチームと名付けた有志のスタッフで、少しずつ緩和ケアのレベルアップを図っているところです。また、ペインクリニック外来を通して、在宅療養中の患者様の緩和ケアにも関わり、必要なときには入院していただける体制をとり、安心して在宅療養を続けていただけるようにしています。

一人の力ではできることにも限りがありますが、地域の病院の麻酔科医として、上記の三部門についてもできるだけ皆様のニーズに応えられるように努力していきたいと思っています。どうぞ麻酔科の仕事にもご理解とご協力をお願いいたします。

（診療部長 兼 麻酔科部長　橋本 朋子）

NST委員会の紹介

病気や傷の治り方に、栄養状態が大きく影響します。

そこで、主治医だけでなく、医療に携わる複数の専門家が、各々の専門的立場から患者様を診ることで、栄養状態を良くし、病気や傷の治りを早め、社会復帰を早めようという取り組みが始まりました。その１つがNSTです。

NSTは

「栄養管理を症例個々や各疾患治療に応じて適切に実施することをNutrition Support（栄養サポート）といい、この栄養サポートを医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師などの多職種で実践する集団（チーム）をNST（Nutrition Support Team：栄養サポートチーム）という」

と日本栄養療法推進協議会で定義づけられています。

当院のNSTも多職種で構成されています。毎週行われるミーティングでは、各々が情報を収集・報告し、これらを総合して現在の栄養状態を判定し、問題点を見極め、改善策を考え、主治医に提案しています。

嚥下（飲み込み）に問題を抱える人には、ビデオ嚥下造影検査を行い、より安全に食べることができる姿勢や食形態について、主治医・担当看護師にアドバイスを行っています。

また、チーム以外の職員や地域の医療機関にも情報を発信し、栄養療法に関係する知識の習得や技術の向上を目的に、勉強会を開催しています。

嚥下造影検査画像

マンモグラフィ検診 施設画像認定を更新しました

このたび亀岡市立病院は、2011年11月に特定非営利活動法人マンモグラフィ検診精度管理中央委員会（以下　精中委）が認定するマンモグラフィ検診施設画像評価の更新（3年間有効）をしました。

マンモグラフィ検診施設画像認定とは、基準を満たしているマンモグラフィ撮影装置を備え、精中委が書類審査・画質評価・線量評価を行い、基準を満たしている施設であると認めるものです。

乳がんは、30歳代から増加し、40歳代後半という比較的若い世代でピークを迎えています。現在、日本人女性の16人に１人が乳がんになると言われていますが、予後はほかのがんに比べて良好で早期に発見すれば治癒率が高く、5年生存率は90％を超えています。

マンモグラフィ検診のがん発見率は、それまでの視触診検診の約3倍で、マンモグラフィは乳がんの早期発見に大きく貢献しています。

当院では、開院当初より乳がんの診断・診療に尽力しており、検診マンモグラフィ読影認定医師・検診マンモグラフィ撮影認定技師が検査を担当しておりますので、安心してマンモグラフィ検査を受けて下さい。

これからも、更なる技術の維持・向上を目指して日々努力してまいります。

平成22年度市立病院の決算概要について

亀岡市立病院は、平成16年度に開院して平成22年度で７年が経過することになりました。医師をはじめ医療スタッフの不足や診療報酬改定など医療を取り巻く環境が依然厳しい状況でありますが、市民の命と健康を守るための安全・安心の拠点施設として、良質な医療を継続して提供していくことを使命として、地域医療機関との連携を深め、医療サービスの向上や診療体制の充実、経営の効率化を図りながら病院理念の達成と市民から信頼される病院づくりのため努めました。また、平成21年度からスタートした「亀岡市立病院改革プラン」（３ケ年）の２年目として、安定した経営基盤の確立を目指して収支の均衡が図れるよう努めました。

① 患者数の状況

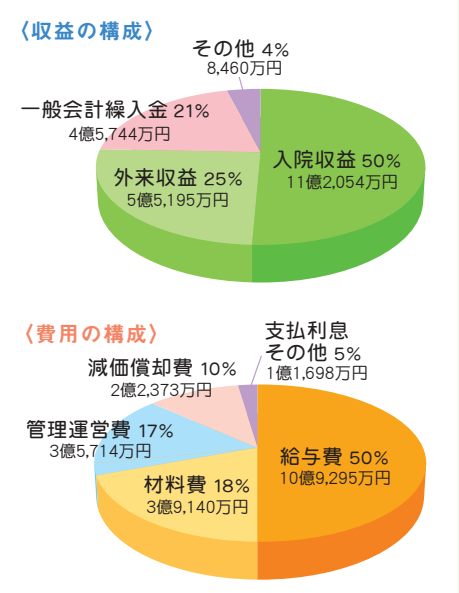
入院患者数は、年間では21年度に比べ1,741人増加して延べ28,803人となり、１日平均では21年度に比べ4.8人増加して78.9人となりました。病床利用率は、21年度に比べ4.8ポイント増加して78.9％でありました。

また、外来患者数は、年間では21年度に比べ2,660人増加して延べ71,855人となり、一日平均では、21年度に比べ8.6人増加して294.5人となりました。

② 収益的収入及び支出の状況

収益的収入は、21年度に比べ1億8,744万円増加して22億1,453万円となりました。内訳は、入院収益が11億2,054万円、外来収益が5億5,195万円、一般会計繰入金が4億5,744万円、室料差額や予防接種などの収入が8,460万円となっています。一般会計繰入金は、国の制度などにより病院事業の経費のうち政策医療である救急救命医療や高度医療、企業債償還金など国や市の一般会計が負担すべきと決められている経費に相当する収入です。

一方、収益的支出は、21年度に比べ7,911万円増加して21億8,220万円となりました。内訳は、常勤や非常勤職員の給与費が10億9,295万円、薬品や診療材料などの材料費が3億9,140万円、施設の管理運営費が3億5,714万円、施設や医療機器などの減価償却費が2億2,373万円、企業債の支払利息が6,645万円、その他が5,053万円となっています。



年間の経営成績をあらわす収益的収支差引では、平成16年の開院以来毎年度純損失（赤字）を計上していましたが、平成22年度は3,233万円の経常利益（黒字）を初めて計上することとなりました。また、平成22年度末の繰越欠損金は4億6,792万円となっています。改革プランにおいて、平成23年度の経常収支均衡化を目標としていましたが、１年早く収支の均衡が図れました。今後とも市民の理解と信頼が得られる透明性のある病院運営に努めていきます。

※平成22年度病院事業決算の概要及び改革プランの実施状況については、当院のホームページに掲載しておりますので、ご参照ください。

行政等視察受入報告

当院では、昨年10月25日に秋田県男鹿市議会10名、28日に神奈川県三浦市医師会８名の視察研修を受入れました。男鹿市議会の皆さんとは当院の病院改革プランについて、三浦市医師会の皆さんとは救急医療における当院と周辺医療機関との取組みについて、それぞれ積極的な情報交換を行いました。今後も、刻一刻と変化する医療情勢の変化に対応するために、地域の医療機関をはじめ、全国レベルでの交流や連携をはかり、市民の皆さまや地域医療の向上に貢献できる病院づくりを目指していきたいと考えております。

トピックス

第８回クリスマス会を開催しました

昨年の12月16日（金）に当院外来フロアにてクリスマス会を開催しました。当院のクリスマス会は、普段お越しいただいている患者様と、いつもの診療の時には出来ないような交流を行い、信頼関係を深めたいとの想いから、平成16年の開院時から、毎年開催させて頂いております。今年は、地元篠町（第５見晴区）のバンドグループUFOT21による生演奏をはじめ、病院看護師によるダンス、紙しばい、ハンドベル演奏、各技師によるゲーム、院内各科医師によって結成された“ドクターズ”によるコーラスなど、盛りだくさんの内容で患者様と楽しいひと時を過ごしました。次回開催の折には、ぜひ、皆さまのご参加をお待ちしております。

看護部職員への挿管介助研修を行いました

11月に行った、救急対応の研修会について紹介します。

研修会は、救急時の処置の一つである、気管挿管介助を中心に行いました。

気管挿管とは、気道に管を入れて肺に酸素を送る処置の事です。気管挿管は、救急時のみでなく、人工呼吸が必要な手術の全身麻酔時などにも行われます。

研修会は、３回実施し、新人から、ベテランまでほとんどの看護師が参加しました。診療部長の橋本医師の指導の下、シミュレーターを用いて、本番さながらに実施しました。患者様の命にかかわることです。看護師の顔も真剣そのもの、緊張が走ります。急変した患者様の担当看護師を中心に役割分担を考えて、医師、看護師の動きを確認しながら実践力の向上をはかりました。

病院職員紹介

医事課情報管理係
主　事
小泉 慎治

新年明けましておめでとうございます。

一昨年、齢37にして初子に恵まれ、1月で2歳になりました。最近ではよく喋るようになり、大好きなパトカー、救急車を見つけては「おっーー、ぺーコー、ぺーコー（ピーポーと言っているつもり）いた!!」と指を差して喜んでいます。去年の10月には運動会があり、何も出来ずただ歩いている姿を見て笑い、12月の生活発表会では、舞台上でなんとか発表が出来ている姿を見て感動してしまいました。日々の成長の速さに驚きと喜びを感じる今日この頃です。子どものおかげで生活にリズムが生まれ、笑いの絶えない生活になっています。今年も子どもの成長を見守りながら、家族のためにという気持ちを持って、公私ともに頑張っていきたいと思っています。新しい年が皆様にとって良い年になることを心からお祈りします。

地域連携医のご紹介

当院では、地域の医療機関と連携して、地域に求められる救急医療・高度医療に取り組み、地域医療の向上に貢献することを病院の基本理念として、患者さま中心の医療を展開しています。

そこで、本院と関係の深い、地域の連携医療機関を順次紹介させていただきます。

阿部耳鼻咽喉科医院

院　長：阿部　登

住　　所：亀岡市追分町馬場通り9-9 ヤマグチSSビル3階
T　E　L：22－8797
標榜科目：耳鼻咽喉科
診療時間：午前10：00～12：30（土曜午後1：00まで）
午後4：00～8：00
土の午後および木、日祝日休診

院長より一言

平成6年8月、JR亀岡駅駅前の6階建てビルの3階に耳鼻咽喉科単科の医院を開設しました。

耳鼻咽喉科の日々の診療では、中耳炎、外耳炎、滲出性中耳炎、難聴、めまい、カゼ症候群、アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎、咽頭炎、喉頭炎等を対象としていますが、耳鼻咽喉科の特徴として、その診療領域には聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚のように視覚以外の多くの感覚器が含まれており、耳鼻咽喉科を標榜するためには数多くの検査装置が必要となります。列挙しますと、純音・語音聴力検査装置、インピーダンスオージオメーター、耳音響放射検査装置、聴性脳幹反応検査装置、防音室（聴力検査室）、補聴器調整装置、補聴器特性装置、フレンツェル眼鏡、重心動揺検査装置、静脈嗅覚検査、電子スコープ（NBI、録画記録保存付き）、高周波電気メス、デジタル単純レントゲン撮影装置、超音波検査装置、睡眠時無呼吸検査装置、在宅持続的陽圧呼吸装置、顕微鏡、手術用実体顕微鏡となり、日常診療に活用しています。

又、毎春のスギ・ヒノキ花粉飛散状況をビル屋上で観測し、当院のホームページにその結果を公開しています。他科の先生も参考にされています。市民の方も日々の生活に御利用下さい。

尚、亀岡市立病院には、頭蓋内のMRI、CT検査や境界領域の食道ファイバー検査等でお世話になり、毎回詳細な報告をいただき、ありがたく思っております。

今後とも宜しくお願い申し上げます。

さとう整形外科医院

院　長：佐藤　英夫

住　　所：亀岡市南つつじヶ丘大葉台1－34－3
T　E　L：25－2701
標榜科目：整形外科
診療時間：午前9：00～12：00　午後4：30～7：30
土の午後および木、日祝日休診

院長より一言

ここ亀岡の地で開業させて頂いて、はや23年が経ちました。地域医療にもやっとなれた頃、班長理事として医師会執行部の末席に参加させて頂きました。その理事会の話題の1つに「南丹亀岡地区で医療を完結させたい」という願望が、時々とりあげられていました。外来診療で検査や手術が必要な患者さんに、南丹病院か桂の病院かを決めていただくと、残念ながら殆どの患者さんが桂の病院を希望されました。亀岡市が出資している南丹病院ではなく、地域医療に多忙であろう他地区の病院に紹介状を書いて治療をお願いするのは、どこかに心苦しいものがありました。当時、亀岡地区は医療空白地と思われていたようで、某病院グループがくるという噂が囁かれる事もありました。

そんな時、市立病院設立の話がもちあがり、そして決定されました。その後いろいろの曲折がありましたが、市民の願いであった現在の立派な病院が完成しました。以後、日常の診療の色々な面で、非常に助かっております。外傷や手術適応の患者さんには、前任の鎌田先生や現在の3名の先生がいつも心よく引き受けて下さり、常にありがたく思っています。またMRIを依頼しても、放射線科の先生のコメントが付いてきますし、時には電話で所見を質問することもあり、患者さんへ自信を持って説明する事ができます。また症例によっては南丹病院（スタッフが非常に充実してきました）を紹介する事もあるのですが、患者さんも喜んで受診してくれており、最近は老ノ坂を越えての紹介状を書く事は殆ど無くなりました。「地域で医療が完結できる」事をありがたく思っている日々です。

これからも市立病院が、市民から絶対の信頼をうる存在を目指して活躍し続ける事を祈念します。

編集後記

新年明けましておめでとうございます。昨年の東日本大震災や福島第１原発事故から間もなく一年を迎えようとしています。福島第１原発事故に伴い、平成23年５月に京都府原子力発電所防災対策暫定計画が策定されました。それに伴い原発から半径50km圏内の当院も、初期被ばく医療機関に追加指定されました。初期被ばく医療の目的は、傷病者や患者の汚染検査、脱衣やふき取りを中心とした除染、初期の応急・救命処置とされています。つい先日、初期被ばく医療に必要な知識の習得や理解促進を図るための講習会が、福知山で行われ参加してまいりました。当初40名程度の募集でしたが、実際は60名の参加があり、関心の深さが感じられました。ここで得た知識を、今後活用せずに済むことを願っています。最後になりましたが、今年も皆様にとって、幸せな一年となりますように祈念いたします。

広報委員会 副委員長　八木 教之（放射線技術科長）

編集委員からのお知らせ

本誌『桔梗』の表紙や挿絵に掲載させて頂く写真やイラストを募集させて頂きます。
テーマの規定はありません。みなさまより多数のご応募を心よりお待ちいたしております。
採用、不採用に関わらず、写真やイラスト、画像データ等はご返却できませんのであらかじめご了承下さい。詳細につきましては、下記担当者までお問い合わせをお願い申し上げます。

【担当者】亀岡市立病院　病院総務課　岡田（平日、午前10時から午後３時まで）

JR馬堀駅から徒歩約5分／京都縦貫道篠インターから車で約5分／駐車（輪）場有

亀岡市立病院

〒621-8585　京都府亀岡市篠町篠野田１－１
ＴＥＬ　０７７１－２５－７３１３　　ＦＡＸ　０７７１－２５－７３１２
http://www.city.kameoka.kyoto.jp/hospital/access/index.html

「がんばろう日本」～亀岡市は東日本の復興を支援します～